

新潟脳神経研究会特別例会の御案内

日時：令和7年1月29日(水) 17:00～18:00

場所：中田記念ホール 脳研究所 旭町総合研究実験棟
(統合脳機能研究センター)6階

中枢神経損傷による晩期脳病態： 慢性外傷性脳症を中心に



高畑 圭輔 先生

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
量子医科学研究所
脳機能イメージング研究センター 主任研究員

頭部外傷は高次脳機能障害などの脳機能障害を残遺させるだけでなく、晩期に神経変性疾患を含めた遅発性脳障害を引き起こしうる。頭部外傷による遅発性脳障害の代表は慢性外傷性脳症(chronic traumatic encephalopathy: CTE)であり、頭部打撃への反復性曝露という外因によって引き起こされる神経変性疾患として近年注目されている。特に、欧米ではコンタクトスポーツ選手の精神行動障害や若年性認知症として社会問題化している。CTEの中核病理は脳溝深部の血管周囲におけるタウ凝集体の沈着であり、CTEの確定診断は死後脳で脳内のタウ病変を確認することによってなされるが、現時点で生前の診断法は確立していない。タウPETは脳内タウ蓄積を検出する技術として有用であり、量研機構では第一世代タウPET薬¹¹C-PBB3、および第二世代タウPET薬¹⁸F-florzolotauを用いたプロボクサーを対象とする臨床研究を実施してきた。また、近年、頭部外傷以外にも自己免疫脳炎、中枢神経感染症、難治性てんかん、化学物質中毒などの中枢神経損傷が慢性タウオパチーを引き起こすことが示唆されている。興味深いことにcryo電顕を用いた検討により頭部外傷以外の中枢神経疾患でもCTE型のタウ凝集体蓄積することが示唆されている。そのため、タウ蓄積は多彩な中枢神経損傷に共通する晩期病態である可能性がある。本発表では、CTE研究のup-to-dateな知見に加えて、拡張するCTEの概念について触れたい。

どうぞ奮ってご参加ください。

(担当：脳研究所 統合脳機能研究センター)

